

県内経済は、依然として厳しい状況が続く中、個人消費は底堅く推移し、雇用情勢にも改善の動きがみられるが、生産活動で回復鈍化の動きが窺われるなど、持ち直しに足踏み感がみられる。

1. 平成22年10月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品、家庭用品等が前年を上回り、合計では2ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、補助金終了により各部門とも大幅に落ち込み、2ヵ月連続で前年を下回った。生産活動は、鉱工業生産指数（原指数）が10ヵ月連続で前年を上回るなど回復を続けているものの、電力需要などに鈍化の動きが窺える。投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、請負金額が2ヵ月連続で前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が2ヵ月連続で前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家、貸家が前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。負債金額10百万円以上の倒産件数は、2ヵ月ぶりに前年を上回り、負債総額は4ヵ月連続で前年を上回った。雇用情勢は、依然として厳しい状況にあるものの、有効求人倍率、新規求人倍率とも概ね改善の動きがみられる。

〔消費動向・底堅い動き〕

大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品、家庭用品等の販売が前年を上回り、衣料品が振るわなかったものの、全店舗ベースで181億9百万円（前年同月比+1.1%）と2ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、エコカー補助金終了により普通車、小型車、軽乗用車とも大幅に落ち込み、合計では2ヵ月連続で前年を下回った。消費者物価指数は、前月比0.6%上昇し、3ヵ月連続で前月を上回った。また前年同月比では0.4%下降し、21ヵ月連続で前年を下回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を保っており、パソコン、DVDレコーダー、冷蔵庫、エアコンも好調に推移するなど、合計では前年を大きく上回った。ホームセンターは、節約志向が続く中で、家庭用品、日用品、収納用品、インテリア用品が堅調に推移し、植物、木材塗料、灯油、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回った。旅行取扱額は、コアとなる国内個人（家族層）が持ち直し、国内団体・海外個人も好調に推移し、合計では前年を上回った。

〔投資動向・伸び悩み〕

10月の公共工事前払保証取扱は、件数が6ヵ月連続で、請負金額、保証金額は2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。9月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が2ヵ月連続で、床面積、工事費予定額は、3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。10月の新設住宅着工戸数は、分譲が前年を上回ったが、持家、貸家が前年を下回り、合計では2ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動・回復鈍化の動き〕

9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、92.4（前月比△5.4%）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は100.2（前年同月比+13.9%）となり、10ヵ月連続で前年を上回るなど回復に向けた動きを続けている。10月の大口電力販売量は、11ヵ月連続で前年を上回ったが、勢いは鈍化傾向にある。

〔企業倒産・横ばい〕

負債金額10百万円以上の企業倒産状況は、倒産件数が2ヵ月ぶりに前年を上回り、負債総額は、4ヵ月連続で前年を上回った。

〔金融動向・貸出金鈍化〕

10月末の預金残高は前年同月比+2.1%と44ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は同△0.7%と12ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向・改善の動き〕

有効求人倍率（季節調整値）は、0.45倍となり前月と同じであった。原数値では0.51倍となり、7ヵ月連続で前年を上回った。新規求人倍率（季節調整値）は、0.79倍となり、2ヵ月連続で前月を上回った。原数値では0.89倍となり、9ヵ月連続で前年を上回った。

県内経済動向の概要

	項目	前年同月比			前月比		
		22年8月	9月	10月	22年8月	9月	10月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	→	→	→	↗	↘	↗
	乗用車新車登録台数	↗	→	↘	↗	↘	↗
	消費者物価指数（総合）	↘	↘	↘	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↘	↘	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	-	↗	↗	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↘	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	-	↗	↘	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数注2	↗	↗	↘	↗	↗	↗
	企業倒産金額注2	↗	↗	↘	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注3	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ↘
 注1：前月比は季節調整値、前年同月比は原指数。注2：負債総額10百万円以上。注3：前月比は季節調整値。前年同月比は原指数。

2. 県内経済動向

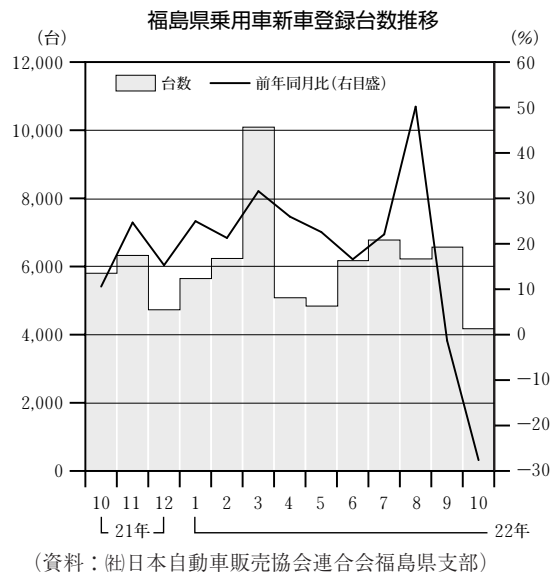
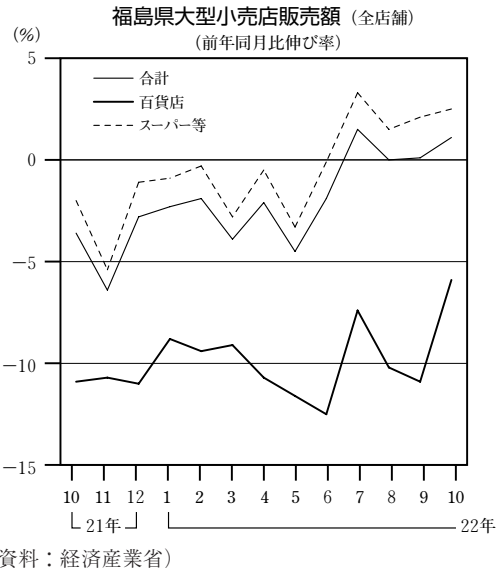
消費動向

大型小売店 10月の県内大型小売店の販売額は、雇用・所得環境が依然厳しい中、飲食料品、家庭用品等が前年を上回り、衣料品が振るわなかったものの、全店舗ベースで181億9百万円（前年同月比+1.1%）と2ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでも同1.0%増と23ヵ月ぶりに前年を上回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別に内訳をみると百貨店は、衣料品が主力の婦人服などで秋もの衣料が低調に推移したほか、飲食料品、身の回り品も振るわず、全店舗ベースで27億75百万円（同△5.9%）と、38ヵ月連続で前年を下回った。一方、既存店ベースでは前年同月比1.1%増となり、3ヵ月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、主力の飲食料品の売上が前年を上回ったほか、家具・家庭用品なども伸び、全店舗ベースでは153億34百万円（同+2.5%）と4ヵ月連続で前年を上回った。既存店ベースでは同1.0%増と、17ヵ月ぶりに前年を上回った。

乗用車販売 10月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で4,244台（前年同月比△27.6%）と、エコカー補助金終了により各部門とも大幅に減少し、2ヵ月連続の前年割れとなっ



た。車種別でみると、普通車は1,337台（同△22.6%）と16ヵ月ぶりに前年を下回った。小型車は1,406台（同△41.3%）と2ヵ月連続で前年を下回った。軽乗用車は1,501台（同△13.4%）と8ヵ月ぶりに前年を下回った。

10月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で9,021台（前年同月比+1.3%）と3ヵ月連続で前年を上回った。車種別にみると普通車は2,625台（同+3.3%）と3ヵ月連続で前年を上回った。小型車は3,518台（同+2.9%）と3ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は2,878台（同△2.3%）と8ヵ月ぶりに前年を下回った。

消費者物価指数 10月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、100.3（前月比+0.6%）となり、3ヵ月連続で前月を上回った。前年同月比では0.4%下がり、21ヵ月連続で下降した。

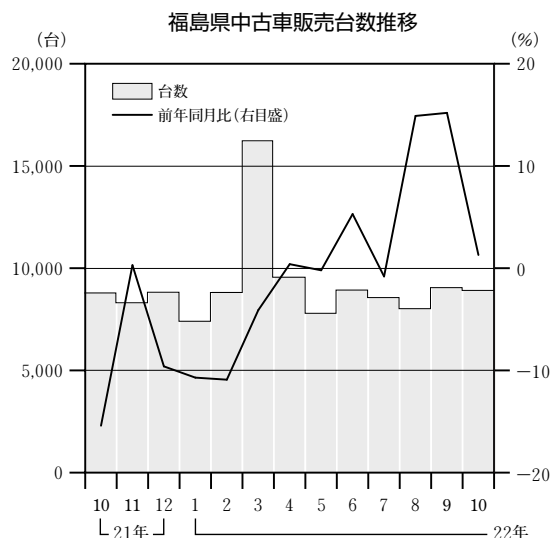
費目別の指数動向をみると、「諸雑費」が108.1（前月比+6.4%）、「家具・家事用品」が91.1（同+1.9%）、「被服及び履物」が104.1（同+1.3%）、「食料」が105.9（同+0.5%）、「保健医療」が96.3（同+0.3%）、「光熱・水道」が107.2（同+0.1%）と6費目で前月比上昇した。一方、「交通・通信」が97.8（同△0.4%）、「住居」が97.6（同△0.2%）と2費目で前月比下降した。また、「教養娯楽」が94.4、「教育」が82.9とそれぞれ前月と同じであった。

家電量販店 10月の売上状況は、エコポイント効果から薄型テレビが依然として好調を持続、パソコン、DVDレコーダー、冷蔵庫、エアコンなども好調に推移するなど、合計では前年を大きく上回った。

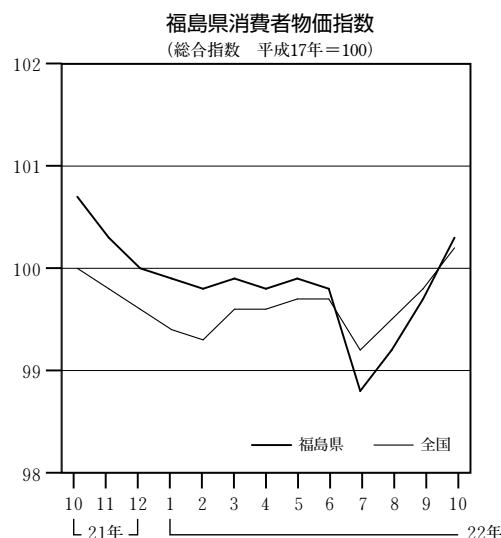
ホームセンター 10月の売上は、節約志向が続く中で家庭用品、日用品、収納用品、インテリア用品などが堅調、植物、木材塗料、灯油、ペット関連などが低調だったものの、合計では前年を上回り推移した。

旅行 10月の旅行取扱額実績は、コアとなる国内個人（家族層）が持ち直し、国内団体および海外個人も好調に推移したことから、合計では前年を上回った。

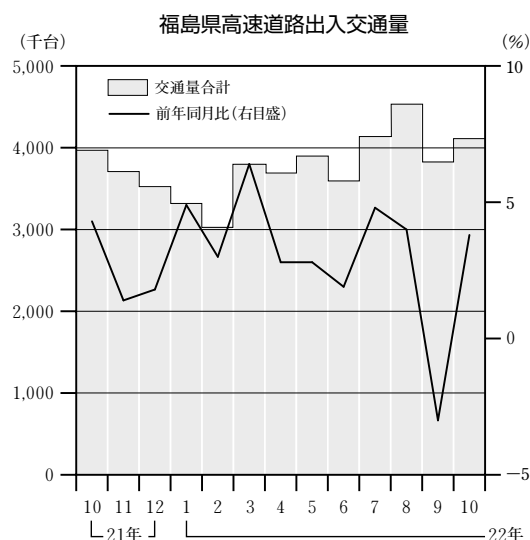
高速道路 10月の県内自動車道出入台数は、「ETC割引制度」の効果などから、4,133,907台（前年



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(株)全国軽自動車販売協会連合会



(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

同月比+3.8%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)は2,418,791台(同+3.4%)と11ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)は277,906台(同+8.9%)と8ヵ月連続で前年を上回った。磐越自動車道(磐梯熱海IC~西会津IC)は634,669台(同△1.3%)と2ヵ月連続で前年を下回った。常磐自動車道(いわき勿来IC~常磐富岡IC)は802,541台(同+8.0%)と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

福島空港 10月の福島空港国内定期路線の利用状況は、19,224人(前年同月比△4.4%)と前年を下回った。路線別にみると、札幌便は8,358人(同△13.7%)、大阪便は10,866人(同+4.2%)となった。一方、国際定期路線の利用状況は、6,661人(同+19.1%)と前年を上回った。路線別にみるとソウル便は5,052人(同+14.9%)、上海便は1,609人(同+34.8%)となっている。

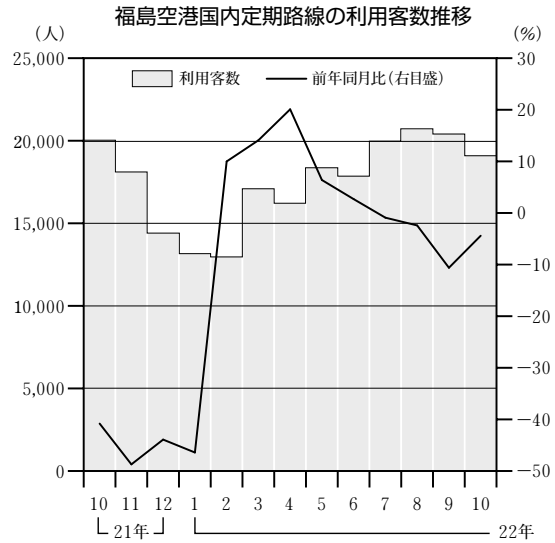
—— 投資動向 ——

公共工事 10月の公共工事前払保証取扱は、件数が658件(前年同月比△21.4%)と6ヵ月連続で前年を下回った。請負金額は157億35百万円(同△25.7%)、保証金額は59億84百万円(同△25.6%)となり、それぞれ2ヵ月連続で前年を下回った。

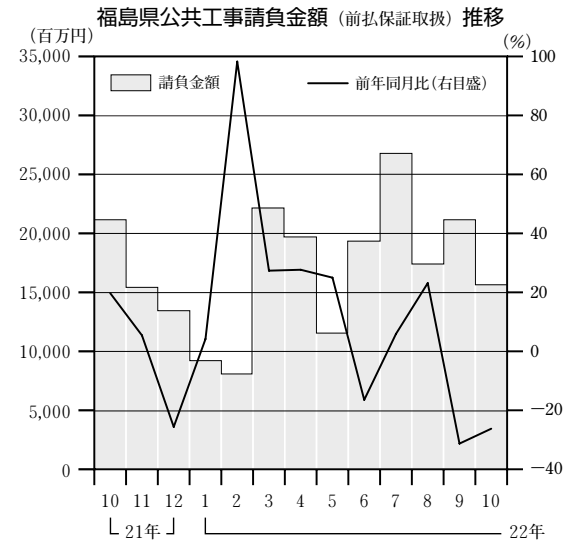
なお、年度累計(2010年4月~10月)では、件数が前年同期比442件減少し、4,047件(前年同期比△9.8%)、請負金額が同75億81百万円減少し、1,321億18百万円(同△5.4%)、保証金額が36億95百万円減少し、488億46百万円(同△7.0%)となっている。

10月の主な発注者別の請負金額は、国が前年比1億31百万円減少し、24億62百万円(同△5.1%)となった。独立行政法人等(東日本高速道路(株)など)は同1億25百万円増加し、4億31百万円(同+40.9%)となった。県は同46億34百万円減少し、53億60百万円(同△46.4%)となった。市町村は同14億11百万円減少し、67億58百万円(同△17.3%)となった。

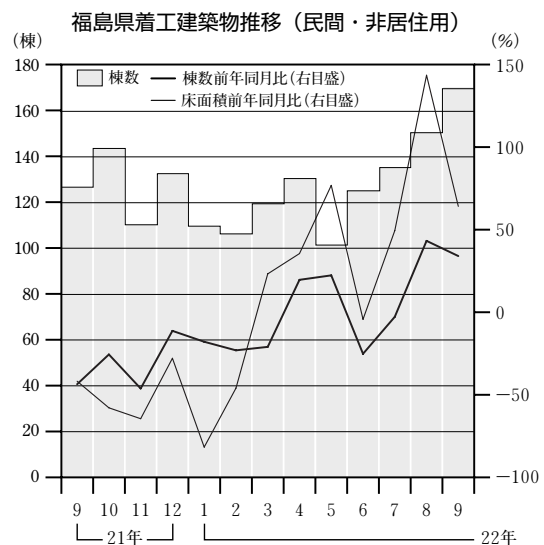
設備投資 9月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が171棟(前年同月比+34.6%)と2ヵ月連続



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)

で前年を上回った。床面積は83,594㎡（同+64.7%）、工事費予定額は173億54百万円（同+133.6%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を上回った。

10月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、717件（前年同月比△4.0%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は136件（同+8.8%）と5ヵ月連続で前年を上回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は581件（同△6.6%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は22件と前月比6件増加し、2ヵ月ぶりに前月を上回った。

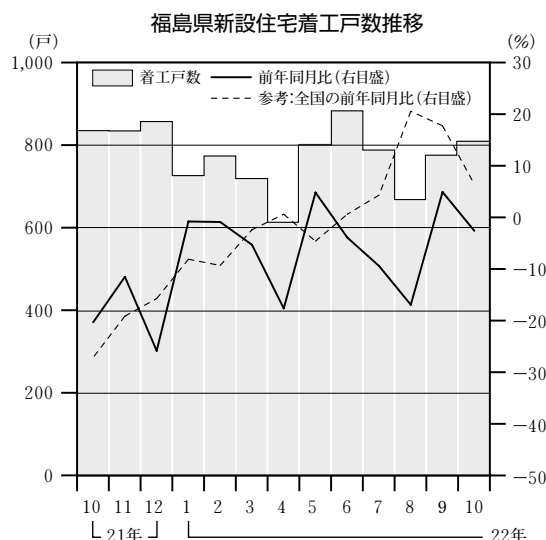
建築物着工の先行指標である10月の建築物申請件数は、689件（同△7.4%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は128件（同+3.2%）と4ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は561件（同△9.5%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は16件と、前月比1件増加し、4ヵ月ぶりに前月を上回った。

住宅建設 10月の県内新設住宅着工戸数は、813戸（前年同月比△2.6%）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」は413戸（同△6.6%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。「貸家」は282戸（同△15.3%）と4ヵ月連続で前年を下回った。「分譲」は118戸（同+96.7%）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。うちマンションの着工戸数は、72戸と5ヵ月ぶりの実績計上となった。

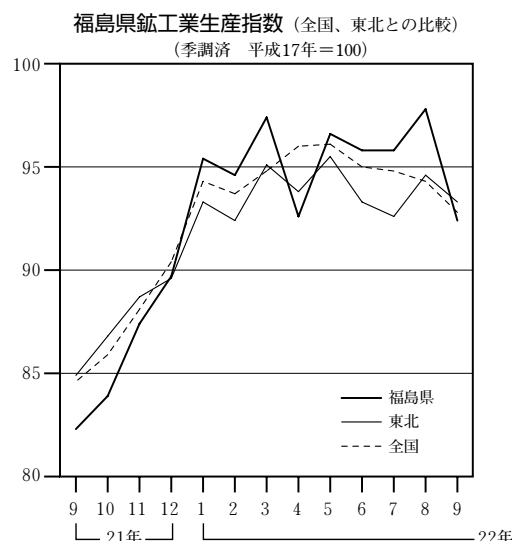
—— 生産活動 ——

鉱工業生産指数 9月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると92.4（前月比△5.4%）となり、2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は100.2（前年同月比+13.9%）となり、10ヵ月連続で前年を上回った。

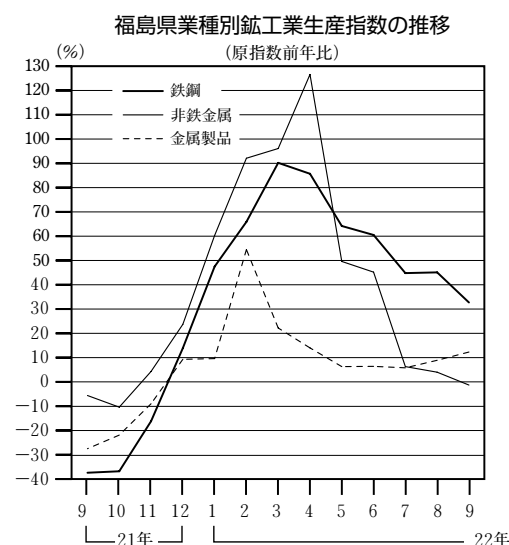
上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、印刷業で58.0（前月比+26.4%）、金属製品工業で68.2（同+7.1%）、鉄鋼業で77.4（同+4.3%）など5業種で上昇した。一方、電気機械工業で66.4（同△24.9%）、精密機械工業で



（資料：国土交通省）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

115.4（同△12.8%）、非鉄金属工業で86.5（同△11.2%）など15業種で下降した。

化学 10月の食品包装フィルム用合成樹脂やフッ素樹脂、金属代替プラスチック、医薬品の生産は好調を持続、炭素繊維も持ち直しの動きが続いている。酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産やバリウム化合物（電子部品原料）の生産は、持ち直しの動きが続いている。

鉄鋼・金属 10月の伸銅品の生産は、半導体向け電子材が横這い、自動車向け端子材が前年をやや下回り推移した。建機用鋳造品の生産は、新興国向けが牽引し、前年を大きく上回り推移した。車両用鋳造品は、新幹線、JR 在来線の更新需要に支えられ、堅調に推移した。船舶用バルブ部品および陸上プラント用バルブ部品の生産は、前年並みの水準で推移した。

輸送用機械 10月の自動車用鋳造品の生産は、アジア向けが堅調、前年並みの水準で推移した。自動車用オイルシールの生産は、国内乗用車販売の落ち込みから、前年を下回った。カーナビ・カーオーディオの生産は、海外向けは堅調だったものの、国内乗用車販売の減少などから、総じて持ち直しの動きに一服感がみられた。

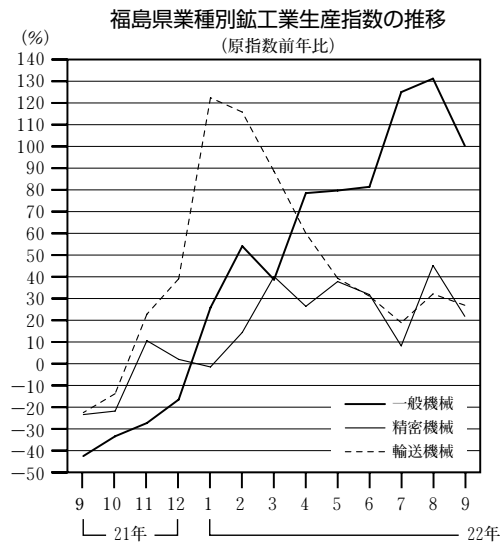
電気機械 10月の自動車モーターの生産は好調に推移したものの、変圧器、配電盤、電熱炉の生産が振るわず、全体では前年を下回り推移した。

情報通信機械 10月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、主力のインド向けが持ち直し、前年を上回り推移した。衛星通信機器関連、FA 関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

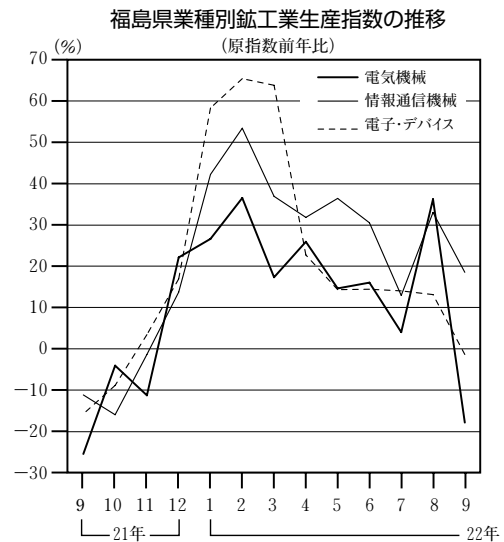
電子部品・デバイス 10月のLSI（大規模集積回路）の生産は、産業機器、パソコン・OA、通信向け等製品が堅調に推移したものの、主力のAV・ゲーム機・家電ならびに車載品が振るわず、全体では前年を下回り推移した。

精密機械 10月の医療用内視鏡の生産は、北米向けを中心に好調に推移し、前年を上回った。デジタル一眼レフカメラ用レンズの生産は、前年並みの水準で推移した。

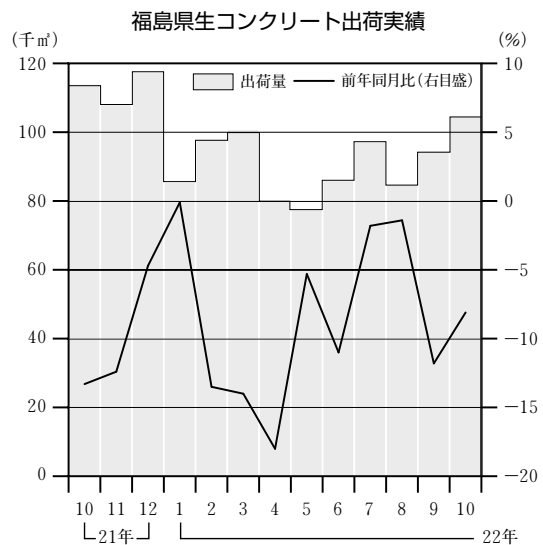
紙・紙加工品 10月のダンボールの生産は、IT向け製品が前年をやや下回り推移した。ノーカーボン紙は、前年をやや上回り、感熱紙は前年並み



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

で推移した。

窯業・土石 10月の生コンクリート出荷量は、全体で105,078m³（前年同月比△8.1%）と19ヵ月連続で前年を下回った。増加地区についてみると、官公需では、県中地区で国道改築工事等、会津地区で地方道改築工事等により、民需では、県北地区で老人ホーム等新築工事等、会津地区で病院新築工事等、いわき地区で火発増設工事等により増加した。

清酒 10月の清酒移出数量は、1,236kl（前年同月比△11.9%）と25ヵ月連続で前年を下回った。タイプ別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が408kl（同△6.7%）と6ヵ月連続で前年を下回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、828kl（同△14.3%）と25ヵ月連続で前年を下回った。

合成繊維物 10月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に、持ち直しの動きがみられた。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けなど前年並みの水準で推移した。

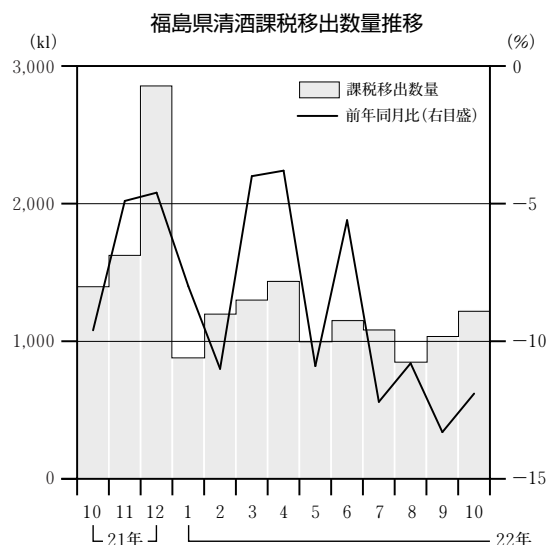
ニット 10月のニットの生産は、冬・春物生産が中心であるが、国内需要の伸び悩みから前年並みの水準で推移した。

大口電力 10月の大口電力販売量は、557百万kw/h（前年同月比+4.0%）と11ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で139百万kw/h（同+17.1%）、「電気機械」で98百万kw/h（前年同月比△12.4%）、「化学」で60百万kw/h（同+1.4%）、「輸送用機械」で58百万kw/h（同+14.5%）、「一般機械」で26百万kw/h（同+13.3%）、「紙・パルプ」で19百万kw/h（同+5.5%）となっており、引き続き非鉄金属、輸送用機械や一般機械で好調が続いている。

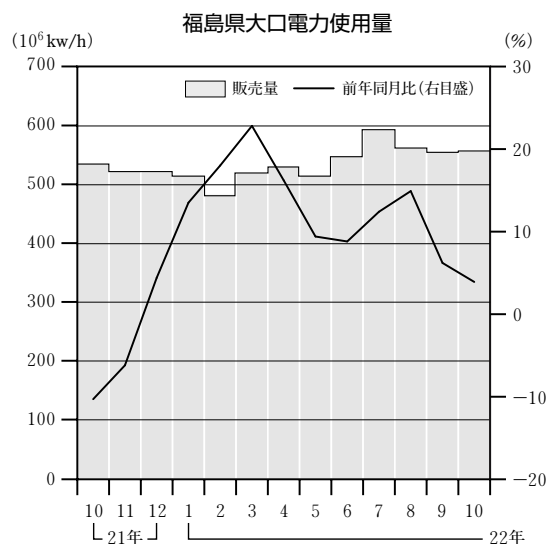
—— 企業倒産 ——

企業倒産 10月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が9件（前年同月比+80.0%）となり、2ヵ月ぶりに前年を上回った。負債総額は、32億47百万円（同+615.2%）となり、4ヵ月連続で前年を上回った。

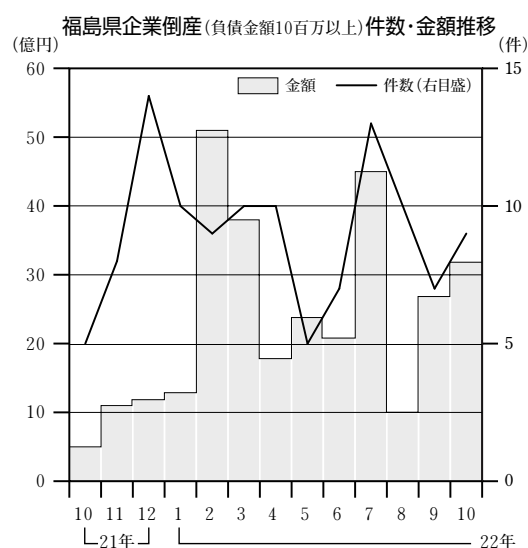
年間累計（2009年1月～10月）では、倒産件数



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）



（資料：帝国データバンク福島支店）

が前年同期比15件減少し、90件（前年同期比△14.3%）、負債金額が同22億24百万円増加し、279億21百万円（同+8.7%）となっている。

倒産主因別内訳は、受注・販売不振が8件、設備投資計画の失敗が1件であった。業種別内訳は、建設業が4件、小売業、運輸・通信業、サービス業、不動産業、その他が各1件となった。また、地区別内訳は、県北（本宮市以北）が3件、県南（郡山市以南）が3件、会津が2件、浜通りが1件となった。

金融動向

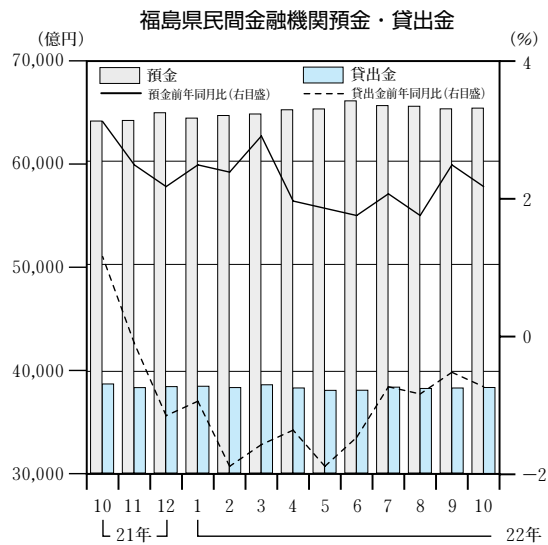
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の10月末の預金残高は、6兆5,518億円（前年同月比+2.1%）と44ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,391億円（同△0.7%）と12ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 10月の保証承諾は、件数が920件（前年同月比△13.6%）、保証金額が96億13百万円（同△11.7%）となった。10月末日現在の保証債務残高は、件数が42,898件（同△1.6%）、金額が3,465億77百万円（同△1.3%）となった。また、10月中の代位弁済は、件数が61件（同△19.7%）、金額が6億98百万円（同△17.5%）となり、それぞれ6ヵ月連続で前年を下回った。

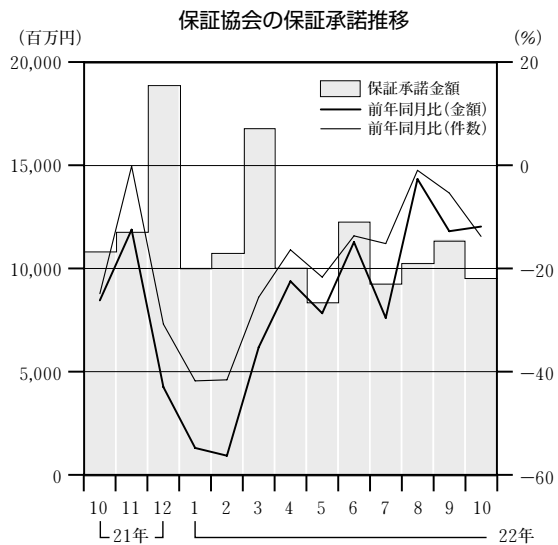
雇用動向

雇用動向 10月の新規求人数（原数値）は、9,652人（前年同月比+15.9%）と8ヵ月連続で前年を上回った。新規求職申込件数（原数値）は、10,808件（同△7.8%）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。

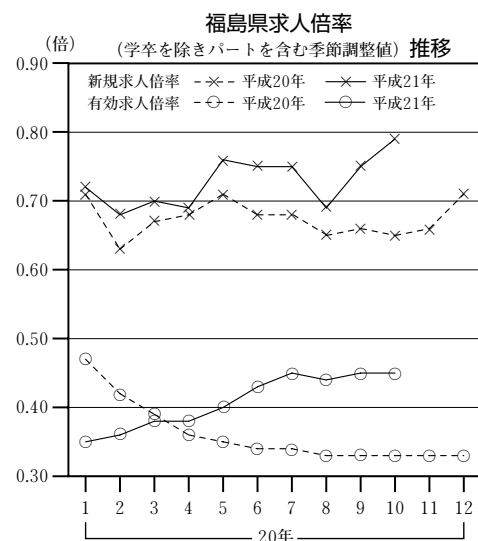
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.79倍（前月比+0.04_{ポイント}）と2ヵ月連続で前月を上回った。原数値は0.89倍（前年同月比+0.18_{ポイント}）と9ヵ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.45倍（前月比±0.0_{ポイント}）となり、前月と同じであった。原数値は0.51倍（前年同月比+0.15_{ポイント}）と7ヵ月連続で前年を上回った。



(資料：日本銀行福島支店)



(資料：福島県信用保証協会)



(資料：福島労働局職業安定部)